

柏若葉 (寿祝柏若葉)

へ春告げし 初音の鳥もいつかおひ 接樹の梅は日の影と 雨露の恵  
みに青葉して 茂る梢の花やしき へ柏も古く常磐木の 松を友な  
るむつみぎに 齡寿く名にちなむ 槐も花の咲く頃と 子にゆづり葉  
や幾千代と かけし願ひの今年竹 青きをわぶる一節に 若葉は同  
じ桐の花 へその蟬桐もゆかりとて せみの羽衣ぬぎかへて はれな  
紋日の薄羽織 着初めに富士も白雪の とけて嬉しき衣がえ へ峰  
もはるかに紫の 雲かと眼にも筑波根は あつ着となりて茂る山 西  
と北とに一对の はでな姿を宮戸川 へ上手へのぼる汐時も よし  
や葭戸と変る瀬に 清きを流す障子船 へ風になびくか夏柳の 糸  
の音じめの床しさに へひかり涼しくさす月を 三ツ瓢たんの連れ弾  
に 浮いた調子の賑はしや へ実に栄ゆく家の名も 延るを継ぎて万  
代も つきぬ流れの末広き 富貴を仰ぐことの葉を 拙き筆に祝ふ  
らん。